

急ぎ過ぎだよ 人類は。

ゆるやかなネットワークを目指す

ITより
逢ひてエ

雑報 繩文

No. 715

2025年9月19日

編集・発行 鈴木厚正
〒266-0005 千葉市緑区菅田町2-21-359
T&F 043-291-2917

も・く・じ

- ・『パレセロナで豆腐屋になった』 2 ページ
- ・友魂 ② 8
- ・米の値段について 12
- ・ち便りから 16
- ・け・い・じ・ば・ん 18
- ・山仕事(タモ、大平) 20
- ・「地域づくり交流会 されば」 21
- ・壊された朝鮮人追悼碑 23
- ・戦争を送ばない民主主義を 26

※掲示板は、18ページに。



降りしうなあとさりも
大根苗いこみる

山頭火

泉ゆき『心はいつも山頭火』
(日本習字普及協会)

題字: 故佐村隆英和尚 (千葉県長柄町本光寺住職)
カット: 故泉ゆきさん(にっぽん箱絵の会会長)

印刷機 リソグラフ RZ330

※この号の切手はいろいろ。

山仕事(9月、大平)

9月2日(火)。暑さが続く中、大平へ。当地では故人の四九日が過ぎまでは人家に入れるといきいたが、正士さんの四九日が終ったことによって、以前のように家を使わせてもらえることとなった。

この日の作業は、家のそばヨザの斜面の草刈り。体調が回復した竹中さんしかわり、男5名でかかる。

作業が終りかけたところで、急斜面を刈る際、草に足をとられ滑落。草刈り機で右足甲を切ってしまった。久米さんが応急手当てをし、磐田病院まで運び治療。3針縫ったが、幸い骨や筋に損傷はなく、出血もわずかで済んだ。

原田さんを一人残し「あらたまの湯」で汗を流す。

康江さんと久米さんが調理てくれた夕食は、

(夕) 冷奴、ナスとジャガイモの炒め煮、レンコンとゴボウの梅干煮、枝豆、紀文のかぶしマヨ、生揚の豚肉巻、豆もやし、漬物。

竹中さんから青町ビール、青山さんから焼酎をいただき、歓談。

夜、久しぶりの斜面刈りで、0時、2時、4時と3回足がツル。

9月3日(水)。原田さんは作業休み。山崎さんが代わってリーダーを務め、坂上さん菜園の草刈り。

(夕) 冷やし中華、カボチャ(久米さんが郡山から)煮、ズッキーニのソテー、ピーマンの塩昆布和え、シタケと昆布のうま煮。

午後、コサ上部の草刈り。

浜松市天童二俣の斎藤俊行さんが、自家菜園のナス、キュウリ、オクラ、シトウなどを頂く。今後、猫の手に参加してくれるよう要請。

夕方、久米さん竹中さんは薄場の葬儀に参加のためいたん戻り、康江、山崎、若林さんとぼくで「あらたまの湯」へ。

夜は、お二人が薄場から戻り、斎藤さん、青山さん、啓史さんに珍しく山本真由美さんも参加して賑やかに食事。

(夕) 炒ナス、オクラのゴマ和え、シトウとナスの味噌炒め、白身魚とエビのラタトゥイユ、豆もやし、漬物。

斎藤さんからパウンドケーキ、青山さんからマグロ、啓史さんからブドウを頂く。

夜、斎藤さんと母屋で寝る。(翌早朝帰宅)

9月4日(木)。台風15号の接近で雨が降り出す。その中、2ヵ月ぶりに水窓さん守屋千鶴、熊谷道子、中谷今朝蔵さんがゴルフ走持参で来てくれた。

作業は無事で早めにご馳走を頂く。

(昼) 海鮮ちらし(マグロ、すき身、エビ、イカ、サーモン、大葉にキュウリ)、冷たいおでん(大根、シタケ、コンニャク、卵、紀文の竹輪)、キュウリとミョウガの酢の物、ポテトサラダ、黒ウリ塩もみ、ナスとミョウガのおからみ醤油味。デザートは、答史さんのブドウと竹中さんのリンゴ。

海から遠いのに鮮度の良い海産物、冷たいおでんは熊谷道子さんが大根を糸ねかご2日茹でてろく抜きし、出来たおでんを冷蔵庫で冷やしてくれたとのこと。

そのほか、豊かな夏野菜も感動ものだった。

昼食後、水産の皆さんとお別れし、原田さんは竹中さんに敷地駅まで送ってもらい帰宅。残る5名は敷地駅で菅原歓一さんをお迎えし、久米さんの車と若林さんの車に分乗して、豊田市足助町の「地域づくり交流会 されから」に向けて出発。